

専攻科福祉専攻(介護福祉士養成課程)への思い

「卒業してからの私」

私は、14回生の中山彩です。卒業後は、社会福祉法人双樹会 自由の杜 で知的障がい者の自立支援をメインとする生活介護の生活支援員をしています。現在はユニットの副主任として生活支援の他にも新入社員指導や実習生指導にも携わっています。又、愛知県で初めての「障がい者公文（くもん）」を導入し、マスター指導員として入居者さんのより豊かな暮らしのお手伝いをさせて頂いています。

専攻科福祉専攻での思い出は、様々な施設やその職員さん、利用者さんと関わる場をたくさん作って下さったことがとても印象に残っています。自分の目で見えて体験して感じたこと・学んだことが今の仕事にしっかり活かしていると実感しています。

保育士と介護福祉士の資格を持つことの意義は、子どもから大人まで幅広い分野で働くことが出来、広い視野を持つことができるようになったことから保育と福祉を学べてよかったと思います。

最後の在校生の皆さんへのメッセージです。専攻科福祉専攻で先生達が経験させてくれた事は、この先の将来で必ず生きていきます。思いやりや心配りなど授業だけでは学べない道德の部分も含め、人として大切なことをも沢山教えてくれたと思います。その気持ちを忘れずに大切に持ったまま、豊橋創造大学短期大学部から巣立って行って下さい。いつか必ずどこかのタイミングで、専攻科福祉専攻で学べて良かったと感じる瞬間があるかと思っています。

私自信は、先生達と出会い、そして専攻科福祉専攻の仲間と出会い、様々な施設の職員さんや入居者・利用者さんとの出会い、本当に人生豊かな経験を沢山させて頂きました。

「福祉ってこんなにも素敵な仕事なんだ」と、今でも感じながら仕事に向かい合っているのは間違いなく先生方のお陰だと思っています。

専攻科福祉専攻がなくなってしまうのはとても寂しいことですが、私はここで学べたことを誇りに思います。大林先生、村上先生、本当にお疲れ様でした。ご多幸と益々のご活躍をお祈り致します。

2022年1月

14回生 中山 彩